

序章 計画策定にあたって

計画の概要

都市計画マスタープランの役割

都市計画の総合的・長期的な指針としての役割

本計画は、世界都市構想などを踏まえて、金沢市における都市の将来像や土地利用の基本方向あるいは都市施設の整備方針を明らかにすることにより、都市計画の総合的、長期的な指針としての役割を果たすものです。

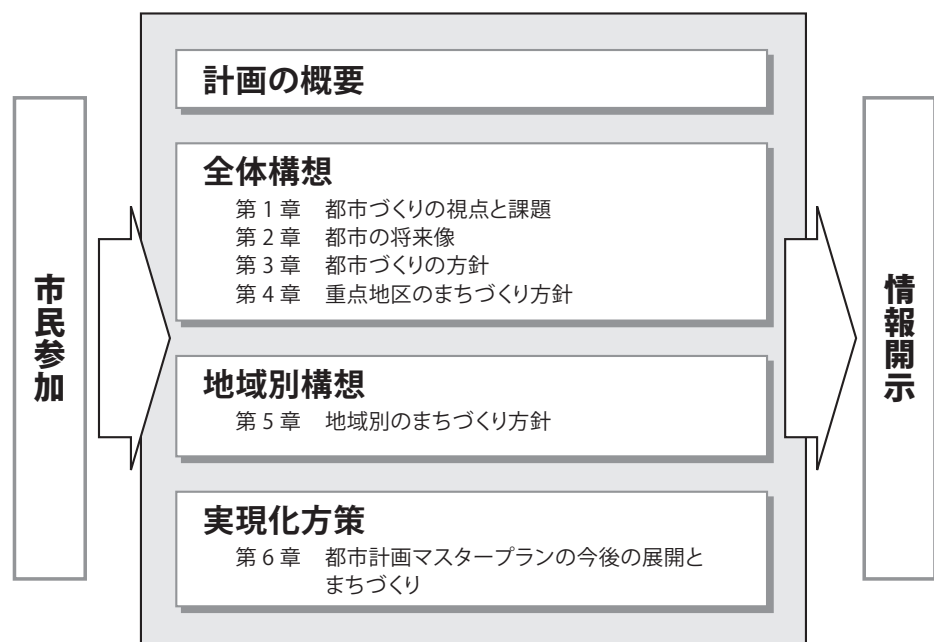
計画の構成

市全域に係る「全体構想」と地域に根ざした「地域別構想」

本計画は、主に「全体構想」と「地域別構想」及び「実現化方策」で構成しています。

全体構想では、金沢市全域に係る都市づくりの方針を示します。

一方、地域別構想では、全体構想で示した都市づくりの方針を受け、地域のまとまりや市街地の形状等を考慮し、14地域に区分し、それぞれの地域の特性に応じた地域づくりの方針を示します。



改訂の目的

社会経済情勢の変化を踏まえた 計画の改訂

本計画は、平成 10 年 3 月に策定された「金沢市都市計画マスタープラン」について、策定時から現在までの社会経済情勢の変化を踏まえて改訂するものです。

計画が目標とする年次と策定体制

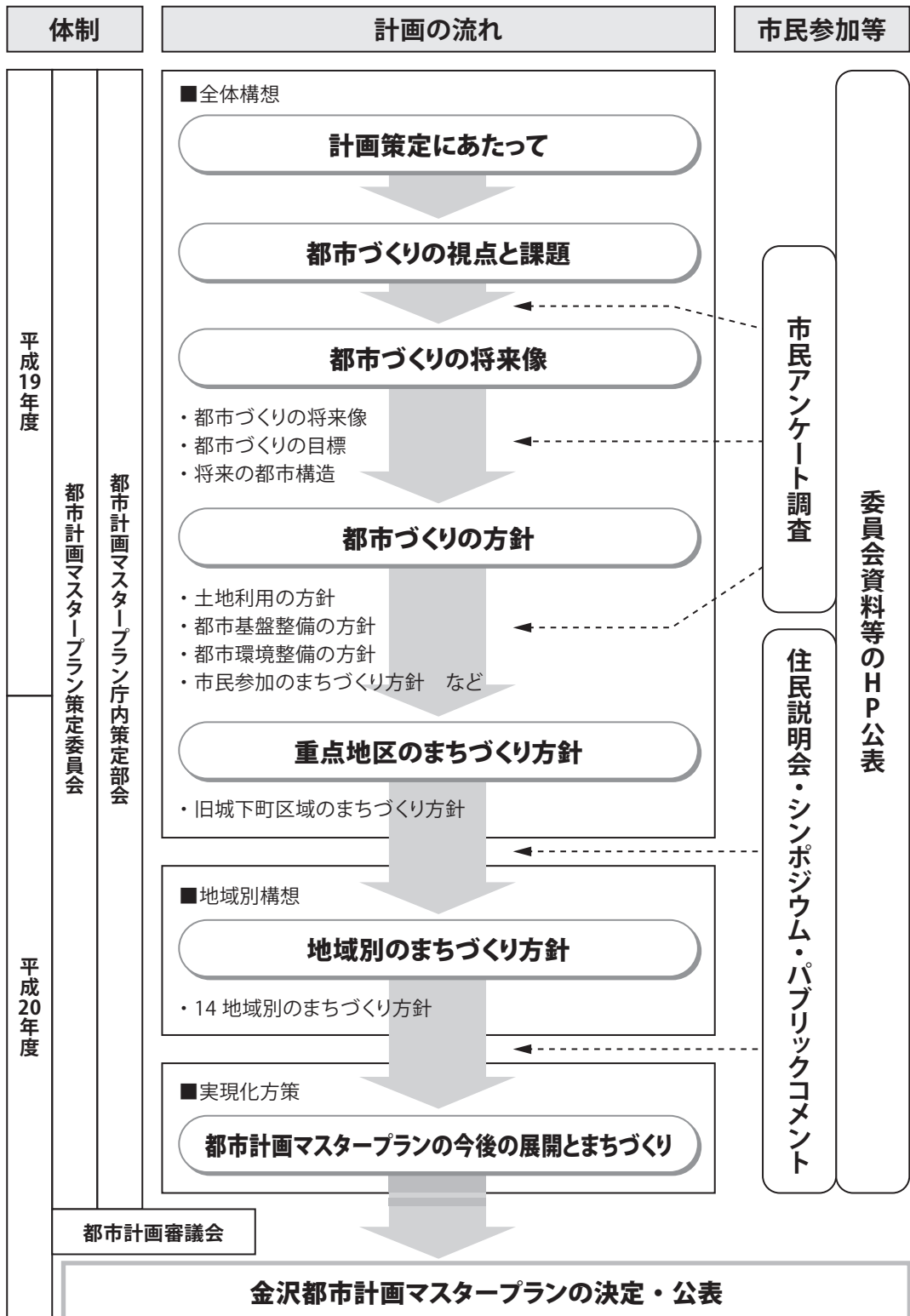
おおむね 20 年後を目標に 市民参加のもとで

本計画の目標年次は、おおむね 20 年後の平成 37 年（西暦 2025 年）とします。

庁内各課が推進する各種まちづくり事業、施策との整合調整を図るために組織する「庁内策定部会」及び、学識経験者や各種団体、市民代表者で組織する「策定委員会」での審議を踏まえながら、平成 19 年度から 20 年度の 2 ヶ年をかけて策定しました。

策定にあたっては、市民の意見・提案等を計画に反映させるため、アンケート調査ならびにパブリックコメントを実施するほか、金沢市のホームページを通じて都市計画マスタープランの策定状況を随時掲載するなど、恒常的な情報開示に努めました。

【計画策定の流れ】



既定計画策定以降の 都市づくりの取り組み

象徴的な都市整備により変化した都市構造と これからの発展期待

既定計画策定以降おおむね 10 年（平成 21 年 3 月 31 日まで）の中で進められてきた金沢市の主な都市づくりの状況は次のとおりです。

都市づくりの取り組み	事業等の概要・状況	整備の姿・イメージ
市街地整備	<p>土地区画整理事業</p> <p>現在 186 地区が施行済、15 地区で施行中であり、既定計画策定時から、施行済地区が 20 地区増加しました。施行済面積は平成 10 年の約 18% 増となります。</p>	 <p>鞍月地区</p>
	<p>市街地再開発事業</p> <p>金沢駅武蔵北地区に第一種市街地再開発事業として平成 14 年 3 月に「ルキーナ金沢」が完成しました。この再開発の完成で、駅前の新たな都市軸を形成する金沢駅通り線も開通しました。</p>	 <p>ルキーナ金沢</p>
	<p>金沢テクノパークの整備</p> <p>高度技術産業、地域拠点産業および試験研究開発機関など付加価値の高い都市型産業にふさわしい創造拠点として、平成 4 年に着工し、第 3 工区が平成 14 年 11 月に完工しました。</p>	
交通・港湾関連施設整備	<p>北陸自動車道・金沢森本 IC の整備</p> <p>平成 15 年 3 月に北陸自動車道 金沢森本 IC が整備され、北陸自動車道と能登有料道路が高規格道路で結ばれました。能登有料道路までの所要時間が短縮されました。</p>	
	<p>山側環状道路の整備</p> <p>国道 8 号の金沢市今町から白山市乾町までの 26.4 キロを結ぶ外環状道路（山側幹線）が平成 18 年 4 月に全線供用開始しました。各地域から北陸自動車道へのアクセスが向上し、交流人口の拡大が期待されます。</p>	

金沢駅東口広場の整備

平成 10 年 3 月に着工、7 年の歳月を経て平成 17 年 3 月 20 日に完成し、ガラスドームは「もてなしドーム」と名付けられました。



金沢ふらっとバスの運行

金沢の道路特性上の交通課題を改善するとともに、環状方向への移動を補完する路線として、また高齢者の外出意欲の高まりへの対応として「金沢ふらっとバス」が運行されています。

平成 11 年 3 月に此花ルートが、続いて菊川ルートが平成 12 年 3 月、材木ルートが平成 15 年 3 月、長町ルートが平成 20 年 11 月に運行を開始し、市民の気軽な足として利用されています。



JR 東金沢駅・森本駅の再整備

東金沢駅は平成 14 年 10 月に現在の新しいバリアフリーに配慮した駅に生まれ変わりました。

森本駅は平成 14 年 12 月にバリアフリー設備も整った橋上駅としてリニューアルされました。



東金沢駅

北陸新幹線の整備

平成 17 年 4 月に富山～金沢間のフル規格工事が認可となり、平成 26 年度末の開業を目指し整備が進められています。



森本駅周辺の様子

金沢港多目的国際ターミナルの整備

船舶の大型化に対応した大水深岸壁や多目的国際ターミナル等の整備を、平成 18 年 7 月に整備に着手し、平成 27 年完成を目標に整備が進められています。



金沢城公園の整備

金沢大学キャンパスの角間地区への移転を機に、「兼六園」と一体になった金沢のシンボル空間として平成 8 年 1 月に総合公園として 28.5ha が都市計画決定され、現在整備が進められています。



都市づくりの取り組み

事業等の概要・状況

整備の姿・イメージ

まちなみ・景観関連事業等

**景観関連条例の
制定**

「金沢の歴史的文化的資産である寺社等の風景の保全に関する条例」を平成14年3月に、「金沢市における美しい沿道景観の形成に関する条例」を平成17年3月に、「金沢市における夜間景観の形成に関する条例」を平成17年9月に、更に、平成16年の景観法の制定に伴い平成21年3月に景観法を活用した新たな景観条例として「金沢市における美しい景観のまちづくりに関する条例」を制定し、また、「金沢市屋外広告物等に関する条例」への改正を行いながら景観まちづくりに取り組んでいます。



**石川県立音楽堂の
整備**

伝統芸能と、質の高い洋楽文化を育んだ土地柄を背景に、石川県が邦楽と洋楽の交流及び、内外に向けて音楽文化を発信する拠点として計画し、平成13年8月竣工されました。



公共公益施設整備

**石川県庁の
移転・整備**

人にやさしい県庁舎、また、環境にやさしい県庁舎、災害に強い県庁舎を目指し、広坂地区から鞍月地区に移転、平成15年1月に開庁しました。



**金沢21世紀美術館の
整備**

世界の同時代の美術表現に市民とともに立ち会う美術館、新たな「まちの広場」、実験の場、子どもたちの体験の場としての役割を担って、金沢大学附属小中学校跡地に整備され、平成16年10月に開館しました。



市民参加

**「金沢市
まちづくり条例」の
制定**

地域にふさわしい市民主体のまちづくりを推進し、個性豊かで住み良い金沢の都市環境を形成していくことを目指し、平成12年7月「金沢市まちづくり条例」を制定しました。現在、住民自らがまちづくりのルールを自主的に定める「まちづくり協定」が計22地区、約132haで締結されています。

